

## 内航船の日

# 内航船員の“秘密の海”を展示 海から届ける写真展

日本海事広報協会「海上の友」（令和4年8月1日号）の記事を紹介いたします。以下転載



7月15日「内航船の日」記念イベント「海から届ける写真展」が7月15日から31日まで、東京・墨田区の銭湯「大黒湯」のロビーにおいて開催された。

展示されたのは、現役の内航船員が撮影した“秘密の海”。

全日本内航船員の会では、船内勤務の合間に撮影された写真を募集。今年は約200点の作品から選定した18点と、内航海運を紹介するパネルなども展示した。

同写真展は、元内航船員の松見準さんが発起し「内航船の日」記念日の1回目から開催。新型コロナウイルスの影響で2年間中止となったが、今年は3年ぶりの開催となった。

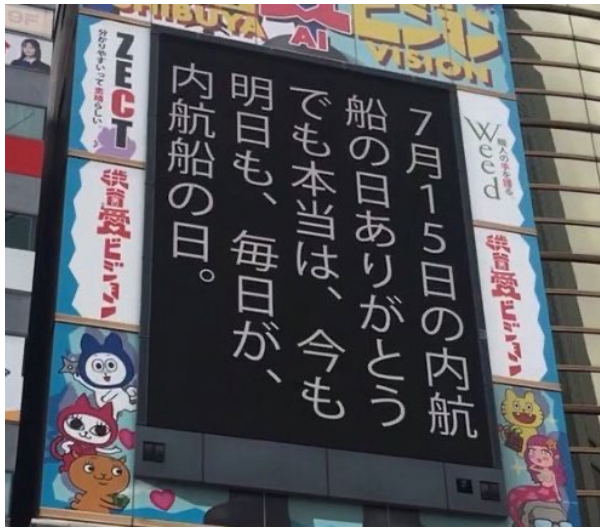
「毎回、墨田区の名物銭湯で開催している。ここでは老若男女、さまざまな人が訪れ、『内航船』という言葉を知ったと喜んでもらえます」というのは、発起人の松見さん。

会場にいると一般の人からの質問もたくさん受ける。深刻な船員不足を知って、自分には何もできないと話すがいる。

「だけど、内航海運を応援する強い気持ちは持ってもらえる。若いご夫婦も興味津々でした。一般の人から目が届かない海運産業にとって、こういう場は必要」。



ツイッター「#内航船の日」の反響で、写真展には全国から人が訪れる。先日はポー



トラジオに入社したばかりの女性が内航船のことを知りたいと来てくれた。

内航船の実情を訴え続ける松見さん。7月17日には、東京・渋谷区の宮益坂交差点の大型テレビ看板で「内航船の日」への感謝の言葉を放映。

「将来は、業界団体などと一緒に全国で開催できればと願っている」。